



令和6年 8月発行

中濃県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育担当:塚原〒501-3756 美濃市生櫛1612-2
TEL: 0575-33-4011 (内線210)

関市立 田原小学校



認知症サポーター養成講座

～親子で認知症について共に学び、共に考える～

関市高齢福祉課では、認知症の人が安心して住み慣れた地域で生活できるように「認知症サポーター」を養成しています。認知症サポーターとは、認知症の人や家族に対して特別なことをする人ではなく、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、温かく声かけをする応援者のことです。

今回は、関市立田原小学校で6月21日(金)の参観日を活用した家庭教育学級で、6年生の児童と保護者を対象にした「認知症サポーター養成講座」が開催されましたので、その様子をご紹介します。

【開催の目的】

田原小学校6年生は、総合的な学習の時間に「福祉」をテーマに学習しており、「周りの人がよりよい暮らしができるように」「みんなが幸せに暮らせる社会をつくるために」を目指して自分たちができることに取り組んでいます。

今回、「認知症サポーター講座」を親子で受講することで、家庭内にも話題が広がり、より深く学べることを願って、参観日に合わせて家庭教育学級を計画しました。

ただお話を聴くだけでなく、親子一緒に認知症の方や高齢者の方との接し方について考える時間も設けて、学びが深まるようにしました。

【認知症についての学習会】



【講師は、関市第4包括支援センターの皆さん】

【真剣な態度で認知症の話聴く6年生の児童】

講師の先生は、認知症の方への接し方のポイントとして、「驚かせない」「急がせない」「プライドを傷つけない」の3点が大切だと指摘されました。そして「認知症の方と接する時は笑顔が大切です。笑顔で優しく話を聞いてあげてください。」と、アドバイスされました。

【グループ別交流会】



グループ別の交流会では、「高齢者の方がスーパーマーケットのセルフレジのところで困って見えます。あなたならどうしますか?」をテーマに学習しました。子どもたちは自分の考えや、どんなことに気が付いたらよいかを話し合いました。認知症の方の不安で心配な気持ちに寄り添いながら、笑顔で接することが大切なことを親子で学びました。

【受講者の感想】

・グループのみんなと話し合ったり、実際に高齢者や認知症の方にどう接したらいいのかやってみたりして、母と一緒に学ぶことができたので良かったです。私にも高齢の祖母がいるので、学んだことを家族全員に伝えようと思いました。【女子児童】



・これからも、おばあちゃんと一緒にサポートしていこうね。認知症の方が困って見えるのを見かけたら、助けてあげようね。母もそうするよ!【保護者】

・困っているお年寄りを見かけたら、できるだけ役に立てるように、勇気を出して話しかけていこうと思いました。お年寄りの方は、今の世代の言葉は分かりにくいと思うので、わかりやすい言葉に変えて話しかけた方がいいと思いました。【男子児童】



・近くにおじいちゃんおばあちゃんが住んでいるので、私も習ったことを生かしていきたいと思ったよ。実際に困って見える人に声をかけるのは勇気があるけど、一緒にその勇気を出せる人になっていこうね。【保護者】

【主催者の感想】

子どもたちは後日、地域のグループホームや多機能型施設を訪問し、お年寄りとの交流も行いました。保護者の皆様の温かいサポートもあり、今後も親子一緒に学ぶ場を提供していきたいと思ひます。



【取材を終えて】

田原小学校の家庭教育学級は、総合的な学習の時間に合わせた内容で、関市の出前講座を活用するなど、主催者側の皆さんが工夫して計画されました。

今後とも、家庭内や地域内の方々との交流が一層深まることを期待しています。

関市立 板取川中学校

吉田勝次講演会 「前人未踏への挑戦」

～人には簡単に行けない人類未到の領域・世界がある～

今回は、7月3日(水)に、板取川中学校の家庭教育学級として開催された講演会の様子をご紹介します。



【開催の目的】

P T A会長の「生徒や保護者の皆さんに、挑戦することの楽しさや達成感を知ってほしい」との思いから、洞戸地域の他に国内外の洞窟を 1000 以上も探検してみえる洞窟探検家の吉田勝次さんの講演会を企画しました。

板取川中学校P T Aと「ほらど未来まちづくり委員会 育みの会」が協働で開催することで、地域の子どもたちのために共に活動する機会や、P T A活動の新しいスタイルを作っていくきっかけにもなればと思っています。

【講演会の概要】

< 講 師 >

洞窟探検家 吉田 勝次 氏

< 講演名 > 「前人未踏への挑戦」

～人には簡単に行けない
人類未到の領域・世界がある～

< 講演内容 >

洞窟探検とは・・・未知未踏の洞窟に入って、そこを調べ、明らかにすること。

1. 一番のナビゲーションは「自分の感覚」

先がわからないから楽しい→一番のアイテムは、自分自身

2. 食料は現地調達。食べることで、気持ちのリセットできる。 どこでも眠れる。(水中で立ったまま眠ったことも)

} 洞窟内の唯一の贅沢

3. 1ヶ月間ずっと洞窟の中だったことも(太陽光線なし、湿度90%以上)

出会った生き物(2mの大うなぎ、エビ、目が退化してしまった魚 など)

4. 危険も苦労もあるが、好きなことだから続けていける。

本当に好きなこと、やりたいことを探すことが探検だと思っている。

人生はそれこそが探検。途中で夢が変わってもいい、それが人生、柔軟性が必要。

自分の好きなことを貫くことが夢を叶えることにつながると思っている。



【質疑応答】



夢を貫き通すのに、一番大切なことは何ですか？

実は簡単です。好きなことだから貫き通すのは簡単なことです。嫌ならやめた方がいいです。

洞窟の中でトイレに行きたくなったらどうするのですか？

排泄物はすべて持ち帰ります。尿はペットボトルに、大便はジップロックを何重にもして持ち帰っています。



【生徒の感想】

3年生の今、進路についてすごく悩んでいて、大丈夫だろうか、私にできるだろうかという不安でいっぱいでした。でも、吉田さんの講演を聴いて、自分がここまで深く悩んで不安に思っていることが馬鹿らしく感じました。自分の人生には、まだ時間があり、やりたいことを見つける時間もそれをかなえる時間もたっぷりあることに気づき、心がすっきりしました。

将来は吉田さんのように、自分の好きなことに胸を張って生きていけるカッコいい大人になりたいと思いました。

【保護者の感想】

- 全く知らなかった洞窟の世界をこの講演会を通じて知ることができました。すべて驚くことばかりで、楽しくあっという間に時間が過ぎました。生きていくために必要なことや大切なことを学ぶことができました。
- 講演の中で、好きなことを続けていくこと、違うなと思ったらすぐにやめて切り替えることの大切さにも気づくことができました。子どもたちの進路にも、私たち大人の人生にも通じることだと思いました。
- 子どもに、好きなことにめぐり会える人生の探検をさせてあげられる家族でありたいと思いました。子どもが成長していく上でいろいろな体験ができるように、サポートできる親になりたいと思いました。

【主催者の感想】

皆さんにとっても興味をもって参加していただき、当日は会場からの質問が多く時間が足りなくなったことは想定外の事態でしたが、かえってとても嬉しく思いました。

好きなことを貫き、ぶっちぎりで前進している吉田氏の講演を聴いてもらうことで、会場にいた全ての方々が「挑戦する勇気と希望」をもらったのではないのでしょうか。

【取材を終えて】

生徒たちも保護者の方々も、吉田勝次さんの息を飲むような洞窟探検の話に魅了され、自らの生き方や人生を重ねながら耳を傾けてみえたことが印象的でした。



郡上市 まどか保育園

10歳までにわが子に伝える 性のお話

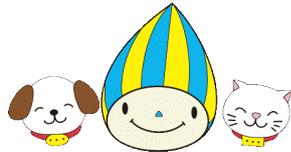
～プール遊びが始まるこの時期に親も大人も知っておいてほしい～

郡上市のまどか保育園は、プールが始まるこの時期に、子どもと保護者を対象に家庭教育学級「10歳までにわが子に伝える性のお話」を開催されました。

今回は、7月8日(月)に行われた家庭教育学級の様子をご紹介します。



【開催の目的】



まどか保育園は、服装が薄着になり着替えて自他の身体を意識しやすいこの時期が、性教育の講演会を開催するのに最適だと考えられました。

園児向けと保護者向けに時間を分けて、それぞれにわかりやすく講師の先生にお話いただき、家庭内でも役立ててもらえるようにしました。

【保護者への話】

<講師> 思春期保健相談士

吉山 千帆 氏

<講演名> 「10歳までにわが子に伝える性のお話」

～プール遊びが始まるこの時期に

親も大人も知っておいてほしい～

<講演内容>

1. 言葉のスキンシップ → 性教育全般

私(子ども)の身体は私(子ども)だけのもの

自分のことはもちろん、相手のことも大切にできる子を育てたい。

2. まずはここからスタート

「プライベートゾーンを触ってくる人、見せてくる人は、悪い人です」

3. なぜ10歳までに身につける必要があるのか?

・10歳は心も身体もグンと急成長し始める年齢→思春期の入り口

・親の話は半分しか聞かなくなり、友人やSNSの話信じるようになる。

・親と距離を取り始める。

・親といるより、友人などと過ごす時間が長くなっていく。

4. そもそも自分はどうやって産まれてきたの?なぜ私はここにいるの?

→自分は奇跡の塊!すなはち、わが子も奇跡の塊!すべてが奇跡の連続!

5. 性教育の最終ゴール・目的は?

わが子に自分の身を自分で守れる知識のお守りを手渡すこと

→人生がより豊かになる土台作り

「生まれてきてくれてありがとう。大好きだよ」は、私たち親だからこそ伝えられること



【園児への話】

1. 自分の身体の中で触っちゃ行けない場所は？ → ありません
2. ただし、とっても大切な場所が4つあります。
・おっぱい ・おまた、ちんちん ・おしり ・くち

この4つは、人には見せたり触らせたりしてはいけない、自分だけの大切な場所です。
「だいじだいじゾーン」(プライベートゾーン)

3. 「だいじだいじゾーン」を触ってくる人や、
見せてくる人は悪い人です。
4. 見せられそうになったり、触られそうになったり
したときは「いや!」と、言っています。
その後、必ず親や先生にそのことを伝えましょう。



【保護者の感想】

- ・私自身まだ性の話をする必要性を感じていなかったのですが、子どもが0歳の時にこの話が聴けて良かったと思いました。今後、おむつ交換や入浴時の声のかけ方が変わりそうです。
- ・今まで避けてきた性の話について向き合う時が来たかと思い、参加しました。性の話を曖昧にせず全部話してOKと聴いて、今までの関わり方を反省しました。また、今晚から夜寝る前に「生まれてきてくれてありがとう」「大好きだよ」と、伝えたいと思います。
- ・自分が子どもの頃は、家庭で性の話が気楽にできる雰囲気ではありませんでした。今日、お話を聴いて、性教育を家庭内で実践できるヒントや心構えをたくさんいただきました。0歳の娘を含み、性教育を今から始める大切さを感じることができました。
- ・私自身が体外受精で妊娠をしたので、わが子が受精、着床、出産を無事に経て、今ここに元気に生きていてくれること全てが、奇跡の塊なのだと改めて思いました。私から息子にも、それを伝えていきたいと思います。

【主催者の感想】

今まで「性の話」にハードルを感じていましたが、吉山先生の講話を聴いて、園や家庭で気楽に話せる雰囲気を作ってあげることで、子どもから相談ができ、自分の身体を大切にすることにつながっていくのだと知ることができました。

【取材を終えて】

参加された保護者の多くの方が、家庭教育学級の終了後も講師の先生に質問したり、参考図書を読んだりしてみえました。
「保護者の方々と共に、私たちも家庭教育学級から多くのことを学んでいます」という園の先生の言葉が印象的でした。

